

オリーブの樹

第141号

2018年2月25日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



わがほたち
孫り袖晴着
縁もなく
あせん一輪
バリエーション
挿し

目次

- P 2 冬の歌 重信房子
- P 3 中東パレスチナの今年の行方 重信房子
- P 5 独居より 重信房子
- P 17 読んだ本 重信房子

重信房子さんを支える会

中東パレスチナの今年の行方

重信 房子

中東パレスチナの今年の行方について考えてみます。

2017年を振り返った時、トランプの登場に示されたのは資本主義が劣化し、むき出しの帝国主義支配を露わにした年として将来刻まれるでしょう。その典型は国際法や国連決議を自らの利益のために翻した「エルサレム首都宣言」であり、またその宣言撤回を求めた国連総会決議に向けて「撤回案賛成国には米の援助停止」を示唆したことに示されました。この大国によるカネで主権を収奪する無法は2018年にはさらに支配の方法として深まりつつあります。

この撤回決議の2017年12月の1年前、2016年国連安保理は12月23日、イスラエルの入植活動の非難決議を行いました。米国が拒否権を行使せず、棄権したため成立したものです。その結果入植活動・入植地建設は「いかなる法的正当性も無い」としてイスラエルの入植者（西岸43万人、東エルサレム20万人計63万人に膨れていた）を認めず、「ただちに東エルサレムを含むパレスチナ占領地ですべての入植活動を全面停止すること」を求めました。

この決議を大統領になる前から罵倒したドナルド・トランプが2017年大統領に就任すると、国際法を無視した米国第一主義の「ディール外交」によって中東情勢を転換させてきました。オバマ政権と対立していたイスラエル、サウジアラビアと同盟関係を強化し、「反イラン危機」を作り出そうとしてきました。イスラエルに対しては自らの支持基盤のイスラエルロビーやキリスト教福音派原理主義右派と軌を一にするネタニヤフ政権に肩入れし、サウジに対しては巨大な武器取引と、サルマン皇太子の主導する「ビジョン2030」の経済改革によって米企業に奉仕させる構造です。反イランの米・イスラエル・サウジ同盟はたちまち強化されました。

これに加えて「エルサレム首都宣言」はシオニスト右派をして、もはやパレスチナ占領地を返す必要はないという論調を跋扈させています。イスラエルのNGO「ピースナウ」によると、2017年にイスラエル政府は占領地入植地に6,072棟の住宅建設を許可しました。今年に入って1月9日すでに1,122棟の住宅建設が承認されるとピースナウは抗議の声をあげています。それに対しリーベルマン国防相はさらに2,500棟の住宅建設を進めると発言しています。ネタニヤフ政権はまったく意に介していません。それどころか昨年12月31日のリクード（ネタニヤフの与党）中央委員会は西岸地区の大きな重要部分（と考える入植地、戦略軍事施設などの地域）を公式にイスラエルへ併合を求める決議を採択しました。

すでにネタニヤフプランは描かれており、「シオニスト計画」をトランプ政権があたかも「米の中東和平案」として提出することは目に見えています。ネタニヤフ政権は勢いづき、西岸併合を今年日程に上らせようとするでしょう。

1月11日ハアレツ（イスラエルのリベラル紙）が伝えたところによると、2014年頃にネタニヤフがオバマ政権に提案したプランが明らかになっています。それによると、イスラエルは西岸地区の大部分を併合し、その代償としてエジプトのシナイ半島北部をパレスチナに割譲させ、将来のパレスチナ国は西岸の一部（自治政府の管理しているパレスチナ人密集地域）とガザ地区およびシナイ半島で構成させるというプランだったとのこと。この案をホワイトハウスから打診されたサウジとアッバース自治政府は拒否したとのこと。過去の93年「オスロ合意」の進行は、当時反対した人々が主張した通りイスラエルは入植活動を止めず、西岸地区（東エルサレムを含む）併合をめざし、アラファトは陸の孤島の管理人にしかたない、イスラエルの支配から抜け出せなくなる、と警告した通りの現実に直面しています。

夕焼けのいや増す紅に染められた桜葉輝く晩秋の獄

冬薔薇真紅咲き乱れる獄の庭白蝶一羽誘われ来し

黄金色の妖精躍るか銀杏降る獄舎を希望で染めるが如く

霜柱さくさく踏みしめ冬晴れのトラック走る今日吾子に会う

エルサレム礼拝のあと抗議続く募算許さぬパレスチナの首都

弓張月渡る明かるい空見上げ砂漠の友らに挨拶送る

パレスチナ旧友らと仰ぎしオリオンに誓いし矜持老いていや増す

凍える朝護送車引越し往く街は着膨れの人山茶花の赤

名残り雪宝のように掌に包み連赤に倒れし友を弔う



またニューヨークタイムズは2017年11月にクシュナーの示す「トランプ和平案」がサウジの若き独裁者サルマン皇太子からアブバース大統領に示されたことを12月に暴露しましたが、それによるとパレスチナ国家は認められるが、第一に西岸地区の「パレスチナ領土」は寸断され、第二に西岸地区の入植地はほとんどイスラエルに併合される。第三にパレスチナの首都は東エルサレムではなく、郊外のアブ・ディス村とする。第四にパレスチナ人の帰還の権利「国連決議194」はその権利を放棄するというものだったとのこと。このアブ・ディス村を首都とせよという提案は2000年7月アラファトPLO議長の参加した最後の和平会議となった最終地位交渉で労働党バラクも示したものです。

この「トランプ案」としてリークされた輪郭は、ネタニヤフが主張している点をすべて含んでいます。パレスチナは主権のない、自治も制約された「現状のままそれをパレスチナ国家として認めよ」とバンツースタン国家を押し付けられています。

「エルサレム首都宣言」をめぐるPLOはPCC（パレスチナ中央評議会）を招請して、米国が仲介する和平交渉拒否を決定し、1967年のグリーンラインに基づくパレスチナ国家をイスラエルが承認しない限り、イスラエルの承認は取り消すことを決定しました。PFLPらは「オスロ合意」破棄を求めましたが、「オスロ合意」に基づいて支援国会議の財源に依存しているアブバース大統領はイスラエルとの協約のため、政治的批判以上の対策を打ち出せず、パレスチナ人民の支持は地に落ちていきます。

加えてトランプ政権はUNRWAの基金の支払い凍結という圧力でパレスチナ人を黙らせようと動きました。1億5000万ドルのうち半額を凍結し、530万人を超えるパレスチナ難民（2016年12億4000万ドル拠出金で賄われている。米国は、パレスチナ人の「帰還の権利」である「決議194」を拒否するイスラエル支援のため、難民支援に拠出してきた）の前途を脅かしています。「カネによる支配」で「世紀のディール・中東和平の実現」にトランプ、ネタニヤフは進み、サウジも密かに共同しています。

こうしたむき出しのカネによって他国の主権を制限するやり口は、米の資金援助を受けているエジプト、ヨルダン、イラク、レバノンなどにも行われる可能性が大きくなっています。こうしたやり口は今後イスラエルの要求と合致する「反イラン中東秩序造り」として激化させるに違いありません。

また、米共和党は、従来の反中、反中国路線も前面に出しはじめています。しかし一方的なイスラエルへの肩入れ、とくに「エルサレム問題」に示されたパレスチナばかりかイスラームへの侮辱はトランプ政権の圧力や意図に反して、新しい動向を生み出さざるを得ません。

特徴的には国家レベルでは「ポストIS」で宗派的対立を脱皮した新しい枢軸ロシア、トルコ、イランのヘゲモニーが登場し始めていることです。そしてパレスチナに対する締めつけは、好むと好まざるとパレスチナに新しい状況を作り出さざるを得ません。それはPLOの復権であり、イスラエル・米に依存しないパレスチナの新しい道の模索です。すでに「二国家案」は崩壊しており、「一国解決」によって平等を求める声もあります。どの解決案もアブバースら「自治区」の視野ではなく、パレスチナ解放闘争の出発した基盤であった、イスラエル占領地内外の500万人を超えるパレスチナ難民の意志を無視しては最早なものにもなれません。自治区のPA（パレスチナ自治政府）PLC（パレスチナ立法評議会）は将来パレスチナ国の地ではあっても、全パレスチナ人の国会PNC（パレスチナ国民会議）の一部にすぎません。

今こそPLO、PNCによって全国民投票を含む未来を決定する新しい出発こそ問われています。自治区のファタハかハマスカという対立を越える全パレスチナ問題の解決、つまり「帰還の権利」をどうするかを決定すべき時に至っているのです。その問題を射程としたパレスチナ勢力の再編・再建こそ何より重要な戦略としてあります。（1月27日）

八王子から昭島に移り快適に過ごしています

重信 房子

11月20日 今日は最高8度、最低2度の八王子です。寒さが深々と分厚い独房の壁をさらに冷やして、房内は冷蔵庫状態。金曜の面会でカイロ3袋（1袋10個入り）差入れてもらい大助かり。ここでは1ヵ月60個使用可（1日2個）ですが、30個までしか購入できません。丁度もうなくなるところでの差入れて、今日受け取りすぐに使用。今日の入浴は午後、寒い中湯船はぬるま湯！震えてしまいました。

先週送ってくれた資料も今日届きました。Uさんからの手紙によると塩見さんの死に関して、みな色々の思いのようです。「生前葬をやって香典集めもやったから放つといい」という人、「一月に追悼会をやる」という人、追悼会に協力しろと言われるある人は「赤軍派第二次ブントの総括をやり、けじめをつける意味の追悼会なら協力するが、塩見礼賛の追悼会なら協力できない」とのこと。「礼賛なら抗議のために出席する」という人も。苦い想いの人が多いのは事実でしょう。それぞれみな自分の実存をかけて力いっぱい闘い、敗れ、共に闘ったリーダーがあまりに無責任な自己肯定を繰り返したことが許せないのでしょうか。「晩節を汚した」という人も居たそうです。かつての戦友と共に語り合えなかったことは、きっと塩見さんも何故か分からないままだったかもしれません。かみ合わないまま永別してしまったことはとても残念で悲しいことです……。

Aさんの話で11月に立川の新医療刑務所の内覧会があったとのこと。これですね、金曜日に聴いた話は、昭島市と立川市どちらだろう。（新聞三多摩版では「昭島」となっていたけど、前の立川基地なら立川市か？）。引越しは来年早々になりそうとのこと。12月中にまた荷物の縮小をしなければ！新年と共に新しい施設。施設が新しくなればなる程管理の観点しかなく、自然は計算に含まれないのが現実で、残念です。

「ICAN」のノーベル平和賞受賞は嬉しいことです。毎年、ノーベル賞のうち、平和賞は政治的で「平和」と遠い権力者が受け取ることもありますが、今年の

ノーベル平和賞は諸手を挙げて賛成です。「ICAN」はNGO連合体で101ヵ国468団体が加わっています。市民団体、平和団体が連帯し、政府を動かして核兵器禁止条約制定の採決に貢献しました。

この中核団体が「ピースボート」です。祝！Kさんの便りは喜びに満ちています。「34年前に友人3人と共にスタートしたピースボートが、本年度のノーベル平和賞を受賞しました。スタートした時『目標はいつかノーベル平和賞を取る』と私は明言し、それで『ピースボート』と命名したのでした」とあります。政府が核の傘の下に居るから「ICAN」を祝さないのと同時に「ピースボート」へのしこりもあるかもしれません。75年クアラルンプール同志奪還闘争で、米・スウェーデン大使館占拠した事件の終わったあと、在スウェーデンのKさんらは、日本政府と協力したスウェーデン政府によって日本に強制送還。その後は、「パレスチナと連帯する会」を興し「パレスチナ友好旅行団」を毎年派遣し、パレスチナ民衆との交流を育てました。この団体と旅行団は公安の攻撃的でした。ヨーロッパでKさんらは71年に天皇訪欧抗議活動をしていたので、彼らとアラブの私たちが共同するようになったのですが、当時の「赤軍罪」はひどいものでした。それにも負けずに、82年のイスラエルのペイルート侵略・PLO追放・サブラ・シャティール虐殺事件を経て、板垣先生らと共に「国際民衆法廷」を開き、PLO共催で虐殺・イスラエルの責任を日本から世界に向けて告発しました。その83年でしたね、ピースボートを始めたのは、ピースボートのICANのもつ良心的な行為は、市民のものとなり、人々のものとなり、人々の協力や知性で、どんどん育っていくものだと実感します。かつて共に闘い、いろいろあった未熟なことは反省しつつ「ピースボート」が人々のものになっていること、共に喜びたいです。

11月23日 祝日は雨。11月初めに送ってくださった「遙かなる1970年代—京都」を読み終えまし

た。70年代の京都学生運動の記録です。副題に「学生運動解体期の物語と記憶」と記されているように、京都を基盤としてきたブンドが、学費闘争、ストライキの攻防、赤軍派の登場による分解、更には連合赤軍事件を反映し、内部の矛盾、新しい潮流の登場で自治会が解体させられていく様子を当事者（松岡利康さんら）のアングルから記しているものです。当初は「書評を」と思ったのですが、書き難いので断念しました。

松岡さんも参加した72年2月1日明德館屋上の誓の決死隊4人の立てこもり、機動隊導入による逮捕がラジカリズムのピークだったようです。以降は学友会がこれまでの全学闘と違った勢力に乗っ取られて(77年5.19)あの学友会もなくなり、あの学館も今はないことなど記しています。私の知っていた69年から70年の朗らかで意気に満ちた同志社・京都時代には全く見えなかったことが多々記されています。当時から赤軍派が軍事を自己目的として、他者を圧倒していたオルグのプロセスの底流に伏流のような姿が、のちに現前化したと見るべきなのでしょう。この若者たちは、孤立と退潮の時代にラジカリズムを継承して敗北していくのですが、私の友人たちの60年代を、もっと学んでみたい気がします。

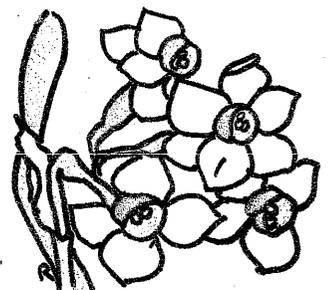
Nさんが前に送ってくださった「アジビラは語る」を読み返しつつ、いつか60年代の京都の友人たちと教訓を語り合いたいです。また、京大の闘いについては「現中研」「労研」「マル青同」など、かなり暴力的な運動展開だったようですが、全く知らない団体です。SさんとかYさんとか友人たちの名が出てきますが、暴力的運動展開は、軍事的主観的許容と「内ゲバ」の常態化という時代状況の中で、政治的行為としてまかり通っていたのでしょう。70年2

月、東京から反赤軍襲撃隊が来ると情報が入り、山科インターのところでマイクロバスを襲おうとしたり、戻って寝ているところ、同志社学館を襲われ友人が逮捕された時、丁度同志社学館に居たのを思い出しつつ、赤軍派の党派闘争がブンドをつぶしたと改めて思います。ブンド各派も運動のエスカレートに価値を置いていた分、分解は必然だったのでしょうか。この京大のところでは、リッダ闘争を批判的に記しています。中にまた、創作「夕日の部隊」があります。この短編に敗北局面の攻防での「革命の政治」とはいい難い葛藤の中で闘う党派の中の群像が描かれていて、60年代との違いを見る思いでした。

松岡さんの記述の中に、当時アラブの中で知りえない日本の状況の一端も見えます。一つは「朝日ジャーナル」80年7月10日号に、永田洋子さん、植垣さんの手記が掲載されている、という話です。「永田は言うー『私たちが殺した14人の同志とご遺族の方々に、心からの自己批判と謝罪の気持ちを明らかにしたい』と。しかし、その一方で『連赤問題の真の責任は、ベトナム侵略戦争を推し進めていた米日反動派にある』とも。これは明らかに開き直りである」と。他にも植垣さんも同様に「明らかに責任転嫁でしかない」と批判しています。高原さんの批判の言が浮かんできます。世界の様々な革命組織と交流してきましたが、「内ゲバ」など自分たちの党の無謬性、唯一性を争う執拗さは日本だけでしょう。「革命家である前に我々はヒューマニストだ」と、口癖のように語っていたアラブの友人を思い出します。

この本に記された当事者たちのアングルと違ったアングルから、私もとらえ返してみたいと思いつつ読みました。特に反省込めて赤軍派についてです。

11月30日 11月尽。早くも酉年が終わりつつあります。「オリーブの樹」140号が届きました。キンモクセイの表紙と一首、ありがとうございます。今回は増頁で「バルフォア宣言百年」の文も加えて下さってありがとう。「山崎博昭10・8プロジェクト」に準備のはじめから関わっていたYさんの文も分かり易くまとめて下さってありがとうございます。「かつて10・8羽田闘争があった」の「書評」含めて67年から50年目を語る2017年にふさわしい編集とな



りましたね。「バルフォア宣言百年」と共に「ロシア革命百年」も書きたかったけれど、手に余りまして「バルフォア宣言」に絞りました。竜子さんの絵が活字の多い「オリーブの樹」のアクセントになっていて楽しみ。(カマキリなあに？なんでもない いやいいんだ……本当はね……という感じも。ありがとう！)。

「キタコブシ」178号最終号を受け取りました。何てステキな表紙。狼君旅立ちの挨拶の絵。巻頭は将司さんに代わって辺見庸さん「不在と残懐一大道寺将司さんへの手紙」というタイトルです。他様々な方々が、将司さんとの交流のぬくもりのまま永別を惜しむ文がたくさん記されています。将司さんとまわりの方々が築いてきた姿勢が、この「キタコブシ最終号」に凝縮されています。ちはるさんの文章もいいですね。みんなに支えられたこの交流誌の最終らしい様々の言葉です。

夜「告知放送」がありました。引越しに伴って荷物を私物箱(とても小さい!)と配布するケースに詰めるようにと。(12月中か?) それ以外は廃棄か宅下げとのこと! 大変です! 大掃除9月にして、それでも許可される量の倍はあります。12月は引越し資料荷物のための作業で一杯になりそう……。所持できないものをノートに集中して書き残したり……と)

12月1日 師走です。荷物整理の見通しをたてなくては……。文章作業は11月で終えて、12月はまず整理集中です。でも午後には黒い新しい旅行カバンが各自に配布されてホッとしています。小さなケースにパジャマ、下着(冬はとくに分厚い下着類やタイツも)、日用品の数々、加えて資料と本と広辞苑まであるので大変! と思っていたら、旅行カバンです。東拘で配布されていた物と同じで、これは「私物箱」(プラスチックで50×32cm、高さ15cm位)より大きい(50×40cm、高さ20cm)これなら広辞苑も宅下げしなくて済むかしら。洗剤、ちり紙も幅を取るし資料・本も減らして……と今日から作業に集中です。

12月6日 トランプ米大統領がエルサレムはイスラエルの首都と認めて、テルアビブから大使館移

転表明のニュース。もともと「いかに和平をさせないか」がネタニヤフらイスラエル右派のやり口でした。エルサレムのユダヤ化、イスラエルの「ユダヤ国家」定義、入植地の拡大とパレスチナ征服支配はオスロ合意を利用しながら進めてきました。パレスチナ側が「入植活動を続ける限り、和平交渉に入らない」という立場を利用してパレスチナ側を弾圧し、「和平交渉に入らない」とさせるためにオスロ合意を大いに利用しました。今もパレスチナ西岸の60%以上はイスラエル軍政にあり、20%以上はイスラエル軍支配下で、パレスチナ自治政府が行政のみ負っています。自治政府は20%弱のみ全面統治しているにすぎません。それはバンツースタンのように陸の孤島がポツンポツンと自治政府のものにすぎないのです。今イスラエルが狙っているのは、その60%を併合し人口密集のところは自治政府の統治にさせて、治安共同の名で自治政府を支配している現在の「暫定」を永久化させることです。そしてその要にエルサレムをイスラエルの首都とする占領の既成事実化です。これで益々パレスチナ側が和平出来ない条件をつくっています。「オスロ合意」を破棄し、パレスチナ側は反占領の原則に立ち返り、非暴力直接行動で世界の良心と結び闘う時です。新しい地平へ!

12月7日 朝食後の投票時、本日CT撮影があること、そのため昼食は延食となると告げられました。13時過ぎに体温・血圧測定の上、CTのある中央棟へ。夏は100以下の血圧が、冬の寒さで今測ったら142と75です。何度もCT検査はやっていたので、主治医が造影剤をCTポートから注入してすぐ終わりました。

午後には資料や本が色々届きました。永田和尚が送ってくださった彼の師、法昌寺の住職で歌人の福島泰樹さんの主催する歌誌「月光」です。2017年4月の50号は「月光の会」30年記念号で、51号52号も最新の歌詞、有難うございます。「月光」については知識はありませんでしたが『「月光の会」創設の頃』の福島泰樹さんの文で、どんな傾向の方々が関わってこられたのか学び、少しわかりました。「月光の会」は「池袋地域コミュニティ・カレッジ」で彼が担当していた「実作短歌入門」講座の受講生が「同人誌」発行を画策し始めたことか

ら始まる」と記されています。85年4月開講。この頃は福島さんは桑名正和プロデュースで、北海道一周短歌絶叫コンサートをやったり、寺山修司祭でも絶叫コンサートをしていたとのこと。第一回の「月光」誌巻頭インタビューは、私も好きな坪野哲久だったとのこと。また、塚本邦雄とも親交深く「月光」の歴史の人脈に歌の方向を学びつつ、読んでいきたいと思えます。私は専門的に短歌を考えたことはないで、「前提」として普通歌人の知っているかも知れぬ分、わからないところもありますが、投稿のお誘いはさておき、年末楽しみに読みます。ありがとうございます！

また、千夏ちゃん、新著ありがとうございます。「活動報告」（講談社刊）で、千夏ちゃんのこれまでの総括三部作（『蝶々にエノケン・私が出会った巨星たち』『芸能人の帽子・アナログTV時代のタレントと芸能記事』）につづく三番目のものが新著で、参議院選挙、政治活動に加わって、現在の政治意識を総括として記しているものです。文章は益々、思想の深みも主体性ある姿、クッキリです。ありがとうございます。しっかり読みます。

他、資料その他ありがとうございます！中東関連レポートなども面白く、夜中、受け取った資料や本などに熱中しました。

12月8日 今日受け取った新聞は、「米『エルサレム首都』宣言」と昨日の夕刊「英仏中国、米を一斉避難」が一面トップの記事です。トランプの言「我々はやっと分かりきったことを認める。現実を認めるに過ぎない」と、正当性を強調しているところに、イスラエル極右言論に屈し、米国内のイスラエルロビーのユダヤ系米国人と、福音派キリスト教徒のシオニストらの支持をあてにしたトランプの動きがあります。本当はトランプは無節操で何でもいいのですが、自分の窮地突破に選んだのでしょうか。極右ベネット教育相が「我々の勝利」と祝すように、「わかりきったこと」つまり「占領と併合」を合法と認め、イスラエルによるエルサレム、西岸支配に賛同する道へと歩を踏み出したのです。

パレスチナは、6日～8日を「怒りの日」として、新しいインテリファダの様相。「現状維持」は（暫定期間の永久化）ネタニヤフの望むところですが、

パレスチナ自治政府（PA）も、その分け前の特権を享受してきたファタハや親ヨルダン勢力がいて、変革を望んでいません。「オスロ合意体制の脱却」を、今こそ行わねば、益々イスラム宗派勢力の力も強まり、ファタハの権威主義親政権がイスラム政権かと、世俗的民主国家の展望を損なっていく岐路に今、パレスチナは立っていると言えます。

また、「人民新聞」や友人たちに対する捜索情報を知り、権力側は「反テロ」「共謀罪」の世論喚起に適切なテーマもないので、岡本救援の「オリオン」の会」を「赤軍罪」で捜査の「実績」を上げ、予算獲得ねらい、第二に「人民新聞」の広範な運動との結びつきを新社屋移転の記を狙って、地域社会による「ヤクザ排除」よろしく「テロ」と怖がらせて、マンション住民尋問など行っていたように追放を狙ったもの。第三に、捜索の選定から私の友人たち（泉水救援、城崎救援を含む）の相関図を描き、何をやっているのか押収コンピューターやケイタイで把握しておこうとする魂胆でしょう。「共謀罪」や「安保法」加えて選挙で「自民圧勝でどんどん攻勢に出ている公安の動き。事件がないので懸念に事件を、企画書・シナリオ作りで演習している姿と見えます。その犠牲にされているのが狙われた人々。今後もこうしたやり口が考えられます。とても「怖い社会」になっています。人民新聞は、何の関係もないのに捜索され、編集長を拘留し続けているようですが、逆に現場からは反撃・抗議が広がっているようです。

12月13日 人民新聞 12月5日号を読んで、人民新聞社の活気、山田編集長の元気な声、そして「オリオン」の「11・21 人民新聞社・岡本公三さん支援活動に対する不当弾圧への抗議声明」によって、私にも全体情況がまく判りました。まずかつての私たちの名を使った弾圧と憤りと共に昔から「赤軍罪」にさらされてきた人民新聞社の方々に申し訳ない思いと連帯の思いでいます。今後も発動されるであろう、権力の「オリンピック対策」や（20世紀の70年代のことなのに）「日本赤軍テロ組織狩り」に名を借りた、共謀罪の実質化は決して許せません。真の狙いは政府に異議申し立てをする人民新聞や市民運動を脅し、弾圧し、市民人民と離反させることにあるのは明白です。

そのために第一に、運動の情報センターである人民新聞社に狙いを定め、移転の時を奇貨として、地域社会から追放させる「やくざ狩り」の手法を用いて、住民を怖がらせるような大袈裟な捜査によって、何の関連もない新聞社を襲ったのでしょ。山田編集長に対する逮捕の口実には、何時でも誰でも当局が狙えば逮捕口実をつくりあげられることを示しました。

第二には、ありもしない「日本赤軍危険視」のフレームアップです。日本赤軍は半世紀近く前の武装活動の後、すでに解散し活動していません。岡本公三さんは85年「ジュネーブ条約」に基づく「捕虜交換」で国際赤十字が仲介し、20年前からレバノン政府の亡命許可の下で病氣治療をしつつ平穏に暮らしています。85年当時、捕虜交換解放でイスラエル政府に抗議した日本政府は、アラブで笑いものでした。刑を終え亡命権を得て療養中の岡本さんの逮捕状をまず日本政府が取り下げることによって、アラブ諸国、人民への友好を示してしかるべき事ながらです。この亡命者への人道的な生活支援を「オリオン」が行っていることを、あたかも「大事件」で、その「共謀者」のように編集長に対するフレームアップが行われています。

第三に、彼ら権力側の都合がありそうです。「テロ」事件などない中、予算獲得、若手警察官の教育、更に公安の既得権を維持すべく、市民運動や良心的な反戦・平和を求める人々をテロと関連付けた人脈図を作り、弾圧のシナリオを捏造しているのです。今後「オリンピック治安」を口実に権威主義と管理社会化が猛烈に進む兆しが、11・21弾圧と言えるのではないのでしょうか。60年代人民新聞（「新左翼」という当時の名称）創設を担った人たちは、当時の左翼の限界を教訓に、官僚主義を許さない運動を求めて「人民の中へ、人民と共に！」をモットーとしていました。山田編集長をはじめとする後継された方々は、この現場主義で闘う人々の声を常に報道して来ましたが、今、権力側が人民新聞を市民、地域住民から分断しようとしている中、逆にそれを許さない多くの方々の抗議と行動を胸熱くなる想いで注視しています。さらに「人民の中へ、人民と共に！」を進むみなさんに私も心から連帯しています。編集長の帰還を求め、新年さらに一杯の前進を祈りま



す。

12月15日 新聞によると「ガザ行政権移譲無期延期 ファタハとハマスの交渉難航」との記事。当初は12月1日までとし、更に10日に延期の上、決着つかず「すべての問題を時間の圧力なく解決するため、あらたな期限を設けないことで合意した」と表明しているが、「年内にはすべての問題が解決されるだろう」と、ファタハの交渉団長。ファタハとハマスは、これまでハマスの雇用した公務員給与の支払いをめぐる決着できていないようだが、イスラエルはすでにハマスとファタハのパレスチナ自治政府の統一には反対しており、妨害を繰り返しています。この交渉の終盤にトランプの「エルサレムはイスラエルの首都宣言」があったのですから、パレスチナ人民は、反米・反シオニストのパレスチナ統一を強く求め、各地で闘い続けているのです。

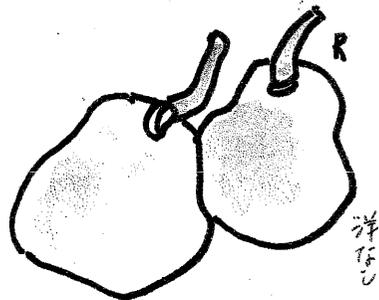
12月6日付のPFLP声明では、「トランプ発言は、パレスチナ人民とその権利に対する宣戦布告である」と宣言しています。そしてPFLPは「このトランプ宣言は『二国家解決』『和解プロジェクト』『和平交渉』と名付けられた幻想をぶち壊したとし、パレスチナ指導部に対して、交渉や、交渉による米の役割に依存する破滅的な経験と教訓に学び、『オスロ合意』と、それに付随するすべての義務から撤回し、また、シオニストの存在の承認撤回を表明すべきだ」と述べています。こうした中でもアップスらの動きは、政治的批判以上の方策は取りえていません。「統一問題」は、ハマスやPFLPら急進勢力の正当な論理を受け入れざるを得ず、そうすれば自治政府の立場を国際的制約の中で（米日欧の財政支援に依存している）失いかねず、自治政府は「オスロ合意」

の残骸にしがみついたか展望も持ち得ていないのです。アラブ連盟も、パレスチナ・ヨルダンの要請を受けて緊急会議で、国連決議違反のトランプ発言の撤回を求めました。

しかし、サウジの動きがどうも積極的ではないようです。サルマン国王は「和平交渉と抜本的に逆行するトランプ政権がとった行動に対し、非難と深い遺憾を表明する」と、7日形ばかりの表明にとどまっているようです。反イラン対策で、ムハマト皇太子が9日、秘密にテルアビブに飛んだとリークされているように、第一は反イラン。米からの武器購入停止も、エルサレム問題のイニシアチブも未だない。「二聖都の守護者」を自任するサウード家は、エルサレムの危機を宗教上も放置できないし、サウジ内の権力闘争の矛盾も来年は暴発するのでは？と思います。パレスチナを犠牲にするやり方、米・イスラエルの征服思想の強化は最早通用しないし、逆に新しい闘いが始まる新年になりそうです。

12月16日 朝刊を読んであまりに悲しい。沖縄の米軍ヘリ部品が落下した保育園に、中傷殺到のことに呆れると共に、日本の「ヘイトスピーチ」思想が、弱いものを足蹴にする空気を実感しました。「ヘリ部品発見、自作自演だ」「そんなところにあるのが悪い」など、米軍ヘリの部品が屋根で見つかった宜野湾市の保育園には、中傷する内容のメールや電話が殺到し、関係者は心を痛めているとのこと。言語道断です。沖縄の犠牲の大きさ多さに配慮もなく、米の尻馬に乗る振る舞いの政府が、こうした風潮の元凶にあると思います。

12月18日 この頃、最低気温は零下2℃から3℃。



最高は10℃以下です。寒いけど、明け方から青空に陽が乱反射するように輝く朝です。窓の外は真白の霜、なんかいい気分。引越し荷物のコンパクト化は終わりつつあります。

午後、今年最後の主治医診察で、CTの結果は夏と変化なしで、特に肝臓の嚢胞以外なし、との専門家の診断だったとのこと。「前回、肝臓に小さな黒点がいくつかあった点はどうでしたか？」と尋ね、フィルムを主治医とチェック。「前回と変化なしで、それもそのままあり、大きくなっていないので経過観察ということですね」とのこと。まだわからない状態ですが、問題はないようです。また、腰痛でレントゲン写真を見た整形外科医から、骨の密度が写真を見ると薄く写っているの、骨粗鬆症の予防に薬を服用するように、と助言があったとのこと。腰痛ばかりか骨折などの原因になるとのこと、今週から薬を飲むことにしました。加齢はあちこちに変化を作り出しています。今日の夕食は想定外にロールケーキ！クリスマスに毎年出る20センチ近く（測ったら19センチでした）のヤマザキのロールケーキ一本がメニュー外にのっていました。明朝に包装紙返却で、夜9時前に食べ終えること。クリスマス会はあるはずですが、まだ告知がありませんが、ケーキを今年は先に頂きました。クリスマス会は中止か。

12月26日 今日はスチームが直って入りました。でも全然暖かくない……。午後今年最後のグラウンド運動。見上げた青空の南東に上弦の月がなんとみごとに！きれいに海に浮かんでいるような青空です。枯芝の中に寒さで葉っぱの小さいクローバー、タンポポの密生を見つけました。来年は香りの良いこの草花の上を歩くことは出来ないな……と思いつつ歩きました。

新聞ではベツレヘムの聖カテリナ教会でイブ深夜からキリスト教徒イスラム教徒が共に恒例のミサで平和を祈ったとのニュース。隣接するキリストの聖誕教会前の広場に大きな平和のクリスマスツリーの写真。抗議で短時間消灯したとのこと。

トランプ政権による「エルサレムはイスラエルの首都宣言」のやり方は、中東や世界情勢の来年を予兆するむき出しの帝国主義支配儀式です。米国政府

は第一に、国際法無視と国際法無視のイスラエル(占領、併合、入植活動、核兵器)の既得権を来年以降さらに支援すること。第二に、その実現のために金と軍事によって世界各国を脅し、服従させようとする。背に腹は代えられぬという国も出てくるでしょう。第三に、こうした動きはアジア、北朝鮮対策、中東では対イラン敵視として緊張を益々激化させるでしょう。ことに中東では反イランの米・イスラエル・サウジの実質同盟が中東各国を緊張と戦乱に巻き込むでしょう。イラン、イラク、シリア、レバノンに対抗して協力体制を強化し、エジプトもカタルもサウジと距離を置くでしょうし。第四に、こうした中でロシアが影響力を広げ、トルコ、イランと協調して中東でトランプ政権と対峙または抑え込む力を拡大しそうです。

トランプとイスラエルさらにサウジの軍事・経済的支配の動きは、逆に新しい人民運動を統一する力となり、また中東平和のオスロ合意枠組みの脱皮が生まれるかもしれません。93年「オスロ合意」から今日までに、すでにシオニストの「譲歩」が欺瞞であることは明らかになっています。

12月27日 今日が今年最後の発信のための日誌です。いつもみんなと心を通わせ合っている気分で書いていたら、もう私の酉年も終わります。I子さんの26日の最後の便りありがとう！Tさんの友人がクリスマスプレゼントのように、フォーリンアフェアーズのバックナンバーを探して送ってくれて、今後は購読してくれるとの便り。どうか感謝を伝えてほしいです。みんなに支えられて今年も元気です。苦勞している友人たち、また山田編集長らどうか連帯の中で共に乗り越えたいものです。どうか良い年を！来年も共に！今年もありがとうございました。来年もまたよろしくお付き合いして下さいませようお願いします。良いお年をお迎えください！

12月31日 結局、私のスチームばかりか、大元の機械が壊れているとのことで、スチームが全体に入らないようです。今日はマイナス3℃から7℃とありますが、房内は2~3℃くらいか？寒いけれど暖かい手紙を今年の最後に受け取りました。永田和尚が1月12日に、新春祈禱法要に来て下さるとの

ことです。もし八王子を移っていたら、新しい施設に来て下さるとのこと。面会法要が叶いますように！また、デジカメ歌人から冬至のお便り。イングリッシュオークの木と、その倍もありそうな長い影が伸びています。新年に向けて一首、「土塀より皇帝ダリアが顔をあげ胸はり歩めと言うように揺れる」今年も思いがけない写真の世相や短歌で交流して下さい感謝しています。体調、体力は良いですか？良い年を迎えられます様に。

今、丁度夕食を終え、点呼も終わったところです。夕食には「まるちゃん緑のたまごそば」(カップ麺)が加わりました。今日のメニューは、ハヤシライス、大根おろしにコーンのポン酢和え、青菜・ピーマンソテーでしたので、ハヤシライスは食べませんでした。年越しそばで満腹です。また、正月用の菓子が配られました。カルビーのポテトチップス60g袋、亀田製菓のうす焼えびせんべい80g袋、ブルボンのチョコダイジェスティビスケット17枚入り箱の3種類です。甘いものが少ないです。

寒い寒いと言っているうちに、もうすぐNHK紅白が始まります。番組表を見ても、知らない歌手の方が多くなったようです。それに、興味もあまりなくなっています。届いたフォーリンアフェアーズ、ニューズウィークで、新年の世界を想像し、妄想する方が楽しい大晦日です。

前に送って頂いた歌集「月の光」も魅力的です。「破れたる旗ふみながら走りきし老いゆく胸に散る花柘榴」(「死んだ街」吉田和子より)何か胸にこたえる一首です。暗い木立の中で赤い鮮やかな柘榴の散る姿がみえます。または、敗北を承知で服わずに意志表示する己を含む人々の人生が浮かびます。時代は、行き場、生き場のない人々を多く生み出すような排他的世界に向かっているようです。だからこそ、首を上げて檣樓の旗を掲げつつ老兵は進む価値があると思います。

もうNHKニュースのあとの紅白が始まりました。今年もみんなに感謝します。励ましやカンパや叱咤や、ありがたいことでした。支えられて元気でいられることを嘯みしめています。出来ることは限られていますが、新年も挑戦の心意気で生きていきます。みんなと共に。みんなにとって良い年でありませう。

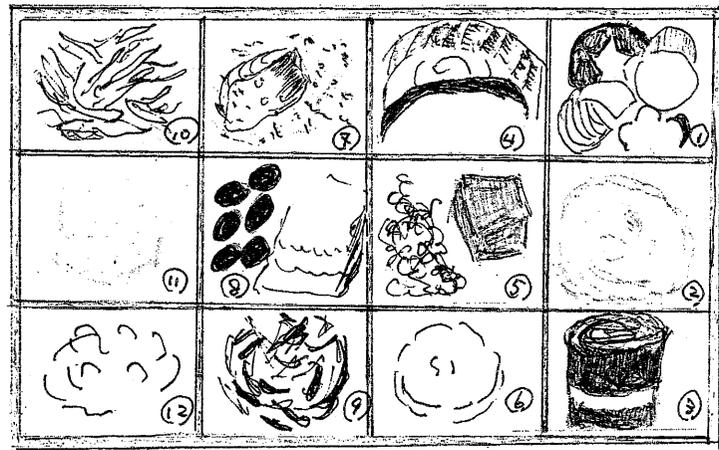
去年今年境目のなき空見上げ世界の友に挨拶送る

2018年1月元旦 新年謹んでご挨拶申し上げます。今日は昨日とちがって晴れやかな冬晴れの八王子です。でもスチームもなく、寒い正月です。

朝、お節料理が配られました。これまでと違って「見て楽しむ」お節です。箱の表題も「華御膳」と記され、箱も28cm x 19cm、高さは2.5cmの浅いもの。12のきれいな一口料理が並んでいます。①は煮物(しいたけ、こんにゃく、筍、里芋、人参) ②はゴールドミートハム風、中に人参など ③昆布巻一ヶ ④伊達巻、蒲鉾 各一ヶ ⑤右が角煮の魚肉、左が蕨の佃煮 ⑥和菓子(黄の外側に内は餡子) ⑦魚と野菜の数の子と和え ⑧豚肉切り身と黒豆6粒 ⑨鶏ささみ、人参、大根、ヒジキのサラダ風和え物 ⑩膾 ⑪カボチャ煮付 ⑫きんとん 以上です。華やかで楽しいお節です。

午前中に友人たちの年賀状たくさん、ありがとうございます。楽しみにしていて、一枚一枚ゆっくり、友人たちの顔を描きつつ読んでいます。夜7時ころにも、また届きました。その中にKさんからの去年の雪割草の庭の写真も届きました。可憐できれいな花です。ありがとうございます。みんなに、今年もよろしくと訴えつつ寒さに耐えています。

1月7日 連休中ですが電報が届きました。大下さんが2日に逝去されたこと知り呆然としています。大下さんから癌の厳しい状態を朗らかに伝えられてから、ブント総括の約束を果たさないと……と、ブント解体の原因となった「7・6事件」の私の知る事実



関係をまず書きます、と約束していました。去年中に書くつもりが他の文章作業が入って大晦日に「今年中に送るつもりだったのに、果たせなかった……」と気になっていました。それで、5日から約束を果たそうと取りかかったところでした。大下さんはブント総括を呼びかけ、またアジアの人々と共に新しい主体形成を描いていた矢先の死。早すぎる……。癌をもっと早く発見していたら……と悔やみつつ、私の救援やパレスチナ支援にも力を注いでくれた大下さんの願いを一端でも叶えたいと思っています。大下さんと一緒に東拘に面会に来てくれた小学6年生の朝子ちゃん。「お父さんね、よくお鍋焦がすの」と話してくれた娘は、今では天文学を目指すハワイ大学の学生です。どうか元気で父さんの期待を力に好きな道を歩んで下さい。

“獄窓の落暉を赤旗代わりとし歌いて葬送らんインターナショナル”

1月11日 初診察がありました。霜焼けの塗り薬も処方してもらいました。今日の最高気温は4℃位。I子さんの初便りも受け取りました。未だ、資料は未交付ですが、ありがとうございます！

Kさんの手紙で、1月6日に庄司弁護士夫人のひる子さんが亡くなれたと知りました。数奇な庄司先生との出会いの後再婚されたこと、ラブラブの庄司先生から何度も伺いました。とっても良い関係でしたし、先生の72年以内の弁護活動ばかりか、夫人もまた、私たちを支えてくださいました。私の公判で弁護に必要な、庄司先生の中東からひろ子さん

に宛てたハガキなど証拠にと持って来て下さったり、励まして下さったのを思い返しています。ご冥福をお祈りします。

1月12日 今日最高気温4℃、最低マイナス4℃の八王子。本格的な寒さに入りました。2月までが一番寒いときです。ベランダは転倒に備えてモケットが敷いてありますが、夜雨が降ったのか、歩くとバリバリと氷の音。

今日は永田和尚の法要面会予定です。午後かな……と思いつつベランダから戻って入浴です。昼食前、まだ髪が濡れたまま法華経を開いたところで、「面会です」の知らせです。あわててパジャマから作業着に着替え、11時20分過ぎ位から永田僧侶と対面になりました。寒い中、多忙をぬって法要に来てくださったこと、新年挨拶と共にまずお礼です。「丁度今日は12日、師と共に法要を執り行ってきたので、声が枯れてしまっているかもしれない」と言いつつ、朗々と法華経の読経が始まりました。しかも規則で、マスクを着けたままの面会読経です。丁度、亡くなられた塩見さん、大下さん、庄司ひろ子さんと、遠山さんら連赤の人たちのことも弔って下さいました。私も、頂いた法華経をめくりながら黙読するのですが、いつもの名調子に、つい黙想してしまい、読経のどの箇所か一度見失うと、ついていけない黙読の初心者です。「マスクで読経なんて初めての経験ですよ」と笑っています。読経法事がメインなので話せる時間は少ないのですが、3・11以来乞われて続けている活動や、身の回りのことも話して励ましてくれます。私も欲張って黙読しながら、亡くなった友人たち、現在一病息災の友人たち、健康な友人たちの幸せも祈りました。新年の祈禱ですもの。チリ紙、カイロの差し入れもお願いしました。

新年早々心機一転の思いです。気持ちもさわやかに、今日は約束の文章を仕上げようと思ったのですが、5時の点呼の後に告知放送です。「明日は13時まで、私物を私物箱一個とキャリーバッグ一個にすべて収納しておきなさい。13時から回収します。入らないものは廃棄になります」とのこと。それで慌ててキャリーバッグに広辞苑、洗剤、書類、文具、下着など詰めてみました。私物箱は、すでに整理して書類や夏物で満杯です。すべてがキャリーバッグ

に入りそうです。とにかく、引越しが宙ぶらりんな気分だったので、今週だとわかって良かったです。これで当分文書作業はできません。

1月13日 今日は引越しかと思ったけど、どうも違うみたいです。私物全部バッグに入れるというのが「着ているものもパンティー一枚まで、私物は入れる」という指示だとわかり、びっくり。どうするのですかと聞くと、官物を貸与することのこと。一日のためにもったいない……。「ハブラシ、ハミガキ、タオルもバッグに入れなさい。それも貸与します」とのこと。とにかく座布団から借りている官本までぎゅうぎゅう詰め。せつかく届いたばかりのガーベラを捨てるのはもったいないので、スペースを確保して入れました。昼食にはお餞別代わりか、スーパーエクレア1ヶが配膳に。5時点呼後、「明日の起床は6時30分、点呼は6時40分になります。以上お知らせを終わります」とのこと。前もって何かをその理由とか伝えることは、刑務所にはありません。でも早朝の移動がわかりました。いつもは7時30分の起床です。貸与のタオル、ハブラシで洗顔して就寝。

1月14日 6時半起床、6時40分の点呼後、すぐに袋入りの朝食。ヤマザキの卵マヨサンドイッチやハムサンドにグレープジュース。貸与の下着に作業着を着て、朝食が終わると早々に担当の人たちが迎えに来ました。まず私だけ懲役の介護役の人と一緒に、第一陣で護送とわかりました。前にPET検査の為、他の病院に行った時には警備が厳しく半円に構えて、大変な訪問先の病院入り口体制でしたが、今回はそうではありません。それでも「要特別警戒措置」のようです。7時半には、腰縄手錠で準備完了。バスへ。でも出発は8時。「これから30分位かかります」との説明で、走り出したらカーテンを開いてくれました。

子安町から大和田橋、甲州街道から多摩川へ。日曜日、街のあちこちには赤紅の山茶花が朝日に輝き、道々には白い息を吐きながら人々が働きに行くところ。角々には警備が立っています。八王子の民族大移動なので、管理官たちは大変です。

とにかく、無事に新しい昭島の「東日本矯正医療

センター」に到着しました。そして単独病房へ。房に入る前に、着ていたもの、スリッパまで返却。房内は、八王子より縦が少し短く、横が広い。東拘同様、窓は数センチしか開きません。それでも南向きで(窓の外は回廊状態で東拘と同じですが)窓は120cmと、幅もこれまでより広くて明るいです。

房内は、ムツとするほど暑い。備え置かれた下着が大量にあり(パンツ10枚、半袖下着7枚とか)まだ説明は受けていませんが、まずそれを着て、甚平風のパジャマを着ました。寝具、ベッド、シーツ、あらゆるものが新品です。八王子の重たい布団などはどうなっちゃうのだろう…。

2つに分けた私物が届きましたが、ここには細い私物ロッカー(幅28cm x 高さ85cm x 奥行45cm)と棚にすべて収納するようにとのこと。もっと減らさないと入らない状態です。これから数日は書類・資料を再び選別しなければなりません。細長いロッカーは、仕切がないので入れ方も工夫しなければ…。

新しい病院によくある、洗える寝具にカバーを掛けたりして汗びっしょり。和尚の入れてくれたカイロもここでは必要なくなりました。

食事は「八王子の家庭料理」から「昭島のファミレス」といった違いで、業者委託か、おいしいです。器もプラスチックながら、陶器や塗り物のようなレストラン仕様です。夕食には、お赤飯、デミグラスソースのハンバーグとエビフライ、ブロッコリーのサラダと、それに入所祝いの紅白饅頭がついて豪華でした。

入浴、運動場、面会室などわかりませんが、東拘風なのでしょう。空調の機械音がうっとうしいです。ここは「東日本成人矯正医療センター」という名称です。アドレスは、「〒196-0035 東京都昭島市もくせいの杜2丁目1番9号」です。これまで同様、住所と私の名前が届きます。

1月15日 昨夜はほとんど安眠できず、頭痛となり、朝、薬を飲みました。それでも鈍痛が続いたまま。空調が機械音がずっと響き、9時の就寝でラジオも消えると、その音が脳に張り付いて眠れません。眠たいのに眠れず、うとうとは目覚め、一晩中不快音が身体中を支配しました。早く朝が来ないか……と願いつつ。朝、主治医に耳栓使用について伝

えてほしいと訴えましたが、施設の音なので我慢するようにと、担当の係は言いますが、慣れるよりおかしくなりそうです。せつかくの素晴らしい施設なのに、これから良いことも、これまでよりやりづらいことも起きるでしょう。何としても元気で生き延びるためには、みんなを想いつつ頑張らねば! と、疲れた鏡の私に叱咤しています。

P.S 夜8時、早くも新アドレスにUさんからの速達が届き、びっくり! ありがとう!

1月17日 9時30分頃運動時間初日でした。いつも寒い中何人か参加しますが、今日は私1人。6階に居ますが、そこに小さなベランダがあります。6m x 4m位か。真中に柱と水道の足も洗える部分をとっているのが狭いところ。その自然芝を移植したばかりの部分がウォーキングスペースです。軽くジョギングしてみました。芝はA4サイズものを敷きつめて馴染んでいず、デコボコしていました。天井の網のむこうは青空。外気にあたって寒いけど気持ちよい。カーディガンは廃止で、甚平パジャマの上にショッキングピンクのフリースジャンパーです。芝をならすように踏みしめました。その後、芝の上に座って真向法も。30分楽しめました。外気に触れられてうれしかった! 昨夜も安眠できず夜中に頭痛の薬をもらいました。でも夜9時から朝7時30分まで就寝時間ですから、うとうとしても合計はきっとよく寝たことになるのでしょう。頭は重いけど外気はありがたかった。

午後は初入浴。共同浴室に入りました。4・5人用で浴槽も広く清潔。プッシュ式の湯はシャワーを含めて自動的に給水が止まるのですが、何か節水より無駄に湯が流れてもったいない感じです。気持ちよく暖かい湯にひたりました。八王子では湯の調節が出来ず、寒い中着換えるのですが、浴槽はいつもぬるくて寒かったのです。今度はホテルの浴室みたいに湯も熱くて湯舟に入ると気持ちいいです。でも何と言っても八王子の素晴らしい庭、グラウンド、桜やバラ、自然の土の上はやっぱり失って残念です…。前便で記したより房は小さかったです。3.6m x 2.3m位です。でもこれまでより広いです。

1月18日 八王子と変わって、新しい医療センタ

一の日常のこまごまとしたことの再設営、新しい日課、ジグザグしつつ気ぜわしい状態で続いています。洗濯の仕方、靴やシャンプーは担当管理か患者かなど、些末で不可欠なことに管理する側も管理される側も慣れようとしているところです。

昨日には主治医の「耳栓使用許可」が出ているのを知り、貸与を求めたのですが、管理物品外とのことで無いので、今朝至急購入か差入れか一番早い入手を相談しました。そして差入れ制限で入れたものが不可になっても遅れるので、ここの当局の方に購入申請することが一番早いだらうということで、書式「特別購入願箋」を受け取りました。明日提出します。来週に耳栓入手になりそうです。

午前中主治医がこの件で診察してくれました。新しい診察室、主治医はパソコンを操作しつつ、話を聞いてくれました。機械音の安眠妨害状況や毎夜頭痛薬を服用しつつ鈍痛が続いていることなど話しました。睡眠薬も新しく処方してもらいました。そして主治医が房内に入ってチェックして、空調の機械音などがラジオや大声よりも睡眠の妨げになると主治医も話していました。昼は気にならないが、何の音もしない夜の方がかえって規則音は安眠妨害になるとのこと。早く耳栓を使用したいです。東拘にいた時も使っていましたが、もう不要と廃棄して東拘を離れたのでした。

夜、八王子の方に着いた手紙類の交付を受けました。大阪でも最低マイナス1度、最高5度とI子さんの便りで知りました。小寒から大寒の今が全国的に一番寒い時ですが、私のしもやけはここに来て小さくなりました。その点ではここはとても過ごし易いのに……機械音が……。

資料はまだ未入手です。「北民連」も「かりはゆく」も封筒は届きました。八王子宛の郵便物がこれから届くと思います。

パレスチナではPCC(パレスチナ民族評議会・国会にあたるPNCが開けない間に意思決定する機関)でトランプ政権のイスラエル寄り「エルサレム首都宣言」に対して、米仲介の和平交渉を「オスロ合意崩壊」として拒否を決定したとのこと。読売新聞では「イスラエル国家としての承認取り消しも決定した」らしい。朝日新聞では「67年境界に基づくパレスチナ国家をイスラエルが承認しない限り、



イスラエルの承認は取り消す」との表明がなされた」と報道。ネタニヤフは「パレスチナ側がユダヤ国家を断固認めないことが争いの根源だ」とパレスチナ側を非難しています。

更にトランプはUNRWAへのパレスチナ難民支援金を半額凍結のニュースが今日ありました。パレスチナの米批判への対抗でしょう。そもそもUNRWAへの拠出金を作り出したのは1949年米国を中心にイスラエル建国を支援することが本音にありました。パレスチナ人の「帰還の権利」を米国は積極的に進めない代わりに、パレスチナ「人道支援」にのってUNRWAを利用して来たのです。今後はトランプ「ディール外交」は益々支援金による締め付けを行うでしょう。パレスチナばかりかエジプト、ヨルダン、イラク、レバノンも含めて。

でもそうすればする程ロシア、イラン、シリア、トルコなど「宗派戦争を脱した新しい枢軸」を中東に育てるでしょう。サウジは窮地に立たざるをえません。サウジの若い独裁皇太子サルマン・ムハンマドは昨年11月にニューヨークタイムズに反イランの外交政策を主張し、「イランの最高指導者は中東の新しいヒトラーだ」として、欧州で起きたことを中東で繰り返させないと述べたものです。この裏には本人が進めているシオニストユダヤ人たちとの共闘、反イラン戦争を正当化する意図がありました。トランプの「イスラエル偏重主義」はかえってサウジ・米・イスラエル同盟を破綻させそうです。

1月24日 今日マイナス6℃、雪が全然融けず、ベランダ運動は望みません。今日耳栓が届きました。よかった! これで今日から安眠できます。前に東拘で使っていたものと同じで、「イヤールイスパー」

594円です。この頃、新センターの食事がおいしいので食べ過ぎています。社員食堂の盛り付けの良いおいしそうなお飯メニューのよう。昨日は、昼に焼きそば、コロッケ、ツナサラダ、夜に親子丼、ポテトチーズ煮、みかん缶、今日は、昼に鶏煮込み、オクラ、ヒジキ、夜に豚煮込み、ワサビひたし、みそ汁など。硬くて噛めない豚肉がなくなり、とろけるような柔らかなのが食欲をそそります。きめ細かい盛り付けも、刑務所では考えられないものです。自然と隔絶された条件はがっかりですが、他はグッド!です。

1月25日 昨夜は就寝9時から耳栓を使いました。安眠出来て、疲れていたせいか明け方までぐっすり眠ることが出来ました。ホッとしています。鏡を見ると目が腫れているぐらいたくさん眠りました。

今朝、八王子やこの辺りは、マイナス8℃。都心でもマイナス4℃で、何十年ぶりの冷え込みと、ラジオも伝えています。22日の雪は、いっこうに溶けません。室内体操続きです。回廊の外側は斜めにはめこんだスリガラス風のプラスチックなので、そこから舞い込んだ雪もまだ残っているのが、窓から見えます。スリガラスプラスチックの向こうは青空。

1月29日 まだ雪の融けない昭島です。でも寒くないので快調にすごしています。大阪も氷点下続きとのこと、温度が低くなると体調も一病息災の人には大変です。I子さん気をつけて下さい。

前田弁護士お便りありがとうございます。今年は古希を迎えられるんですね。憲法の価値が問われる年に「9条を守る県民会議」の代表に就かれたこと「敗戦を契機に平和を希求した市民の切なる思いが



決して無駄になることがないようにしなければならぬと決意しました」と記されています。本当に今は地域・暮らしのところから憲法を改悪させない市民の量的な広がりごととも問われています。この力があってこそ野党の論戦も有効性を持つからです。先生のみんなに優しい話で人々の輪が広がると確信しています。私の旧友Tさんもうすぐ誕生日です。2月ですね。前田先生と一緒に活動しているでしょうか、期待しています。

デジカメ歌人、大寒のお便り、写真は冬の大きなキャベツ!葉が幾重にもかたまりを包んでいます。「春を抱く」タイトルピッタリ!「キャベツの季語は夏であり、その花言葉は利益です。西欧原産で2500年前からケルト人により栽培されてきた古い野菜です。江戸期に観賞用(葉牡丹)として渡来し、その後野菜として今日の盛況を誇っています」との説明。初めて知りました。人間の都合で冬野菜になったのですね。「雪の朝ダルマを作る子らも無く吠える犬もいず電線の雪落つ」“少しずつのろまになりて気がつけば大きな入り日窓の向こうに”でもゆったりと過ごしておられる様子が伝わってきます。御自愛下さい。

1月31日 今日はベランダにはもうほんの少しの残った雪。芝を踏みしめつつ小さいベランダをゆくり走り回りました。狭いので目が回りそう。

患者らは食事の話に夢中です。栃木刑とは較べものにならない!とか、暖房のこととか、空調音のこととか。みな不満はメニューがこれまで前もって知らせてくれたのが、届かなくなったこと。今日も、今日はパンのはず、いや月6回パンだからもう今月ないとか、みな研究熱心です。今日はわけ知りの人の予想が外れてパン食ではなく、すき焼きで生卵(割って熱を通したもの)も添えられていました。午後は、これも前触れなくコーラス。この新施設6Fに入って以来、初めてエレベータに乗るかと思ったら、6Fは広く他の管理区での初コーラスです。正月だから「富士山を歌いましょう」と富士山を大声で楽しく歌い、「たき火」それに「冬景色」。この「冬景色」は先生と私しか知らない歌。先生ももうすぐ86才で「じゃあ私たち老でまずお手本を歌いましょう」と。この歌は私の大好きな歌。よくハミン

グしたりします。「狭霧消ゆる 港江の〜♪」楽しい。

最後は東北に連帯してみんなで「花は咲く」、あつという間の一時間。声を出せるのは気持ちよいです。

夕方、Kさんの新施設初便り(アドレスが昭島になっています)みごとな庭の雪景色をありがとう。

暖房で身体への負担が軽くなったことを喜んで下さっています。そちらもあつという間に雪が積もったのですね。新雪、ふかふかの雪を雪国の人には申し訳ないけど楽しみましたとのこと。昔はお連れ合いとスキーも楽しんでいたので、雪は思い出を連れて降りますね。私もレバノンの戦場の雪、連赤の旧友の山の雪を思い出してしまいます。「名残り雪宝のように掌に包み連赤に倒れし友を弔う」と霽れました。

2月5日 今日は新聞休刊日で、沖縄・名護市の市長選挙の結果を知りたいのに、わかりません。昨夜は9時就寝ですし、全国ニュースは入らない。もう

少ししたら、「Jウェブでわかるかも……」と待っている点呼の後です。

今日は、朝9時過ぎ、「エコー検査」とのことで、初めてエレベーターで6階から降りて1階へ。建物も広い。その上、東拘と同じく扉を開けるたびに、指紋照合のシステムです。これだけ広いと職員も歩き回る負担もとても大きいようで、同情してしまいます。検査はこれまでの腹部のエコー検査かと思ったら、新しい器材導入した骨密度を測るエコー検査でした。右足かかとの左右にエコーの時使うジェルを塗って、足形の上に右足を乗せるだけでした。身長、足のサイズを聴かれそれをノートパソコンに入力し、すぐに画面に結果が表示されるようです。「結果はまた主治医から聞いてください」と、いつものCT検査技師に言われましたが、画像で見るとOKのようでした。本当にいろいろ便利で、第三世界の戦場から、少し日本をぶらぶらしてずっと刑務所に居る私には器材の革新(注射器や針一つとっても)に驚かされています。

読んだ本

中山千夏著「活動報告80年代タレント議員から162万人へ」(講談社刊)を読みました。

ここでは、「書評」というより内容を紹介したいです。難しいことを易しく面白く書く著者の文章力に感嘆しつつ、現在の政治状況に一石を投じる一冊だと読みながら思いました。

本の帯には、こうあります。「かつて私は国会議員だった。——市川房江、青島幸男、鳩山威一郎、宮田輝に続き第5位、161万9629票を得て、第12回参議院選挙(全国区)で最年少参議院議員となった元名子役・人気タレントの彼女が見たものは? 子役時代「蝶々とエノケン」、TVタレント時代「芸能人の帽子」に続く「自分語り三部作完結編」とあるように、稀な環境の中で人生を歩んだ中山千夏の自己総括であり、その総括を通して社会に普遍的な問題として返しながら、現代社会を問う時代批評であり、考察と見解の書です。

この著書は、前二作よりも自らの経験と探求思索から問題意識をより論理化し、政治的見解を明快に示している書です。現在の混迷している政治へコミ

ットする上で、著者の市民運動、政党、選挙、国会活動などの総括教訓は、今も活かされるべき点が記されています。

この本を書くにあたって、著者は第1章の中で、「個と社会」の定義と連関をまず示しています。当時なぞうまくいかなかったのか、根源的に解明した現在の到達地平として、この本はその観点を切り口として、論じています。そういうと難しいことが記されているのかと言うと、そうではなく、「難しいこと」がとても平易に記されているのです。

著者はこの本を「回顧録」としないために「人は個人でもあり、社会人でもある。それがものを書く時、個人が表に立って書くと回顧録になる。社会人が表に立って書くと評論になる。そんな感じですよ」と、まず、社会人として書く方向性を述べています。人は誰しも個性があり、社会性を同時に持っていること、この「個性と社会」の関係を自覚的にとらえることによって世の中がはっきり見えてきたとして、この切り口からこの著書を一貫して論じています。

著者は「国家に迫られて」の中で「実は『個性と

社会』の眼鏡を拾ったのは、国家について考える路上でした」と述べて、個性と社会性は人間生来備わっているが、対立関係にあるととらえる。「個性は『私は私である』が基本ですから、他人は思案の外。他人と集まって何かしたい社会性とは相容れません。むしろ社会性が目指すところの社会作りの邪魔になります。それで、個人の内部では、個人と社会のせめぎ合いが生じる。自分の社会性を満足させるために、個人の内部では、常に個人が抑圧されているのでしょうか。だから人間社会は法を發明したのではないのでしょうか？」と。様々なウラオモテのある社会に生きる中で、個性との矛盾をきたしていること、軋轢が生まれ、個性の自立を求めて反社会的に生きることもなるなどの様々な例を論証しながら、著者中山千夏は個性を重んじ個性を生かしながら共に生きる道、つまり個人主義で行くことを宣言しています。それは著者のこれまでの政治活動時代の矛盾解明の観点でもあります。

著者は「個人主義」は『私利』や『ワガママ』をも含めた個性を互いに尊重し合おうという覚悟だと言えるでしょう」と、その内容を示し、第1章「個と社会」の締めくくりに「もう立候補しない理由」として、「私の個性と社会性のバランスが、国会に適應しなかったこと」をあげています。自らの個性自意識が強いこと「常に『私』が頭にある。『私』が『私』でなくなることに強い拒否反応がある」と述べています。

「考えれば考える程、国会は封建的な全体主義社」ととらえ返し、それよりも自分の「個性と社会性のバランスで無理なくやっつけける社会に身を置いて、政治的な活動をしていこうと思っています。一口で言えばやっぱり私には市民運動が向いているということですね」と、総括を示しています。

第2章「参議院議員のこと」で、著者はなぜどのように政治活動を始めたのか？ どのような国会活動をしたのか？ これを本題として報告しています。当時、メディアの最先端であったTV局は他のメディア以上に名門大学を出た「男社会」で、性差別はあまりの当然のこととしてある中で、著者は違和感を感じつつ働き（それは前に「書評」を書いた「芸能人の帽子」でも述べた）リブ運動と出会い求められて道の一般人と会い、イベントに参加協力、司会

をやり、楽しかったことが大きな転機となったようです。そしてこれらの人々と一緒に、74年には「魔女コンサート」を日比谷野音で開催したことから始まり、これまでの人生に無い解放感価値観の共通性を実感していきました。また一方、73年労働争議光文社闘争支援をきっかけに、矢崎泰久や、ばばこういち、永六輔らと仲間意識を育て、77年に発足した「革新、自由連合」に誘われて、加わったことが政治活動のきっかけです。この77年の参院選は、保革逆転のチャンスとして、左派知識人、文化人らが団体を結成し、推されて著者はその共同代表の一人として関わったことが始まりでした。この選挙戦で惨敗し、その総括や実情はとても興味深い教訓ですが、省略せざるを得ません。

ここから革新自由連合（革自連）は、市民政治学校などの市民運動を続けつつ、79年の参議院選挙に、著者は求められて立候補し、31歳で当選し、6年間の議員としての活動に入ったのです。83年にも「革自連」は参議院選挙に臨もうとしました。しかし国会での孤軍奮闘の著者の反対にも拘らず、参議院選挙の法改正を自民党は行います。無所属有名人の高得票に対抗して「拘束名簿式比例代表制」に変え、政党による選挙にしたために、全国区で個人の立候補ができなくなり、個人で全国区で大量得票してきた議員たちは可能性を奪われます。革自連も「政党選挙」しかできなくなり、その時の情況、無党派結束の失敗もあり、政党としての当選者を出しえなかったし、続く86年の著者の改選でも議席を失う結果に至ったのです。

この総括として、「個人的には清廉潔白に頑張ったが、政治的には彼女（著者自身のこと）は毒にも薬にもならない議員だった。今日に続く無残な政治路線を変える何の役にも立たなかった」とし、3つの欠陥があったと自己総括しています。第1に、いわば自由人である著者には、国会のような固い役割社会で生き生きと働きうる個性と社会性のバランスが成り立たなかったこと、第2に、経済力が不足していたこと、第3に、中山千夏はみんなの「出したい人」であって、「出たい人」ではなかったことをあげています。「議員に必要なのは、何を置いても自己の存在を主張する積極性です。特に、院内では無力な無党派層を代表する議員には強力な積極性が不可欠

なのです」と、議員のあり方を総括しています。さらに、「政治は本質的には駆け引きなのであり、駆け引きとは欺瞞、詐欺などと同じ線上のものであり、だから時と場合によって、欺瞞が強く臭うものなのだ、政治家である以上、それは避けきれものではないし、避けようとするのは政治活動を十分にしないことなのだ」と、当時はハシタナイと思ったが、今は理解していると述べています。

それ故、のちの投票においては、第一に自ら出たい人か、第二に、自分と明確に合致しうる政治目的を持っているか、第三に、良い運動仲間（党や政治団体のサポート）があるかをチェックするようになったと述べています。

第3章には、「それからこれから」として、議員引退後の著者自身の生活の転換、その後の市民運動や「脱原発」への関わりを含めた生き方を記しています。そのタイトルには「市民運動でいく」「地域重視でいく」「非武装でいく」「全体主義のこと」「美しい言葉のこと」「象徴のこと」「国民のこと」「民族のこと」など、現在問われているテーマについても見解を示しており、自らの経験と思索の導いた見解はどれも納得のいくものです。

そして、最後に『あとがきとしてのインタビュー』矢崎泰久 VS 中山千夏の中で、革自連の結成について矢崎さんが明らかにしています。「革自連」は五木寛之さんや竹中労さんの思惑でどう始まり、個々の思惑に当初からそれぞれどんな矛盾があったのかを当時牽引した責任を矢崎さんは述べています。

この「それからこれから」の3章のうち「社会への文体、個人の文体」という話の中で、この本は単に回顧録でなく、かつて投票してくれた162万人に報告したいと考えたと、次のように記して、私のこともその中で語っています。以下に引用します。著者は『個人として』ではなく、『社会人として』書いていきたい、つまり、社会性を意識的に際立たせた文体で自己の政治活動を報告したい」と。

「この、社会人の文体、ということについては、じつはある印象的な余談があります。私の友だちの中に、唯一、本格的な革命家があります。日本赤軍の重信房子です。と言っても交流はわずかなものです。

（中略）私が友情を持つようになったのは、わずか一夜のお喋りからでした。彼女の話は情がこもって



中山千夏 参議院全国区 活動報告

80年代タレント議員から162万人へ

いて少しも理屈っぽくなく、活動の説明も、だから私にもわかりやすいものでした。出会いに別れに、情を表すことも躊躇しない人でした。（中略）

ところで、ある有名な作家が重信の小説を書きたいと思立ち、獄中の彼女に取材したことがありました。無理だろう、と私は思いました。案の定、しばらく取材したのちに、その作家は執筆を断念しました。「小説になるような話が少しも出てこないから書けない」ということでした。往復書簡を経験し、少しは重信の著作も読み、一度は面談もしていた私は、まさにそれを予想していたのです。その小説家は人間の情念を描くのに秀でた作家でした。実在の公人に取材しても、その社会性よりも個性をえぐり出して描く流儀なのです。ところが私が知る限り、重信の語りは見事なまでに彼女の社会性を表すものばかりでした。彼女はもっぱら社会人としての面のみで語り書くのです。私には、それが重信の自然に見えました。個性を保護するためにあえて個人生活を隠すわけではなく、重信の自然な個性と社会性のバランスがそうになっている。革命家たる社会人としての心身が彼女の大部分を無理なく占めている。（中略）それは彼女の個性の特色であって、だから社会的な文章には表れないのだと思います。もちろん私信ならいくらか個性が立ちますが、公の文では表れません。それは、彼女が公に個人的な文を書く必要を認めておらず、社会的な文章ばかり書くからなのです。さらに言えば、他人が読む文章において、彼女が個人的な文は書けない、私的真情や私生活はか

けない、のではないかと私は思っています。他者と対したとたんに、彼女と社会性が満たしてしまう、それが彼女の自然なありようではないか、と。革命家に向いている、と私が思う所似です。したがって、彼女をモデルにした私小説は、真赤なウソなら書けても彼女に取材してのドキュメントのかたちでは書けません。それでいいと思います。むしろそれがいい、と思います。革命家をアイドルに仕立てる必要はないのですから」と、記しています。

出会いの未熟な私を過分に評価していただいて恐縮ですが、それはさておいて、「目から鱗」の思いで読みました。著者の文から自分を再発見した思いです。そうか……!と。第1章の著者の「個性と社会性の対立」のところで小さなひっかかりがあったのも、それと関連しているのかも知れません。「対立」は本質的にはそうかもしれないけど、調整、共生する側面もまた、個性の自立を助ける時もあるので、と。でも著者の「個性」は、私の使う「主体性」という言葉と一つのような気がします。私の「個性」(欠陥でもあります) そのあり方はきっと父の生き方の姿勢からきているのかも知れません。読みつつ思いました。

そして著者は言います。「さて、じつは私は、重信房子のように書こう、社会人の文体で書こう、と本書にとりかかりました。参議院議員という政治活動の報告には、それが相応しいと思えたからです。(中

略)しかし、読み返してみると努力はうかがえるものの、やっぱり私は社会性よりも個性で語る傾向が強い、と認めざるをえません」と記していますが、個性を普遍的な現代の問題提起へと練り上げていて、とてもわかり易く、こういう文章の方がはるかに成功していると思います。かつて著者と私は「話の特集」で往復書簡を行ったように、また、彼女の個性に牽引されながら、私も個人的な語りをきたえたいと思い返しています。著者はまた、70年代半ばから社会運動に関わり、まわりの仲間の信頼に応えたくて、「ついやりすぎて国会まで行ってしまった」と語っていますが、似たように私も仲間の信頼を受けようと「ついやりすぎた」という側面もあり、読みながら初心者の新鮮な共通性も見つけました。他にも国家・民族など含め、著者の提起した論点平易でありながらきちんと見解を表している点、賛成です。これから政治活動をする人にも、教訓として読んでほしい内容です。(12月10日)

140号の誤植の訂正とお詫び

20頁右列36行、40行、21頁右列2行の3か所
ハーバード・サミュエル→ハーバート・サミュエル
24頁右列27行 民族憲章の条項を
→民族憲章の条項変更を
24頁右列下から2行 語り合った→祝し合った

後記

重信さんは、1月14日に、八王子医療刑務所から昭島市に新設された東日本成人矯正医療センターに移監されました。東日本成人矯正医療センターは、法務省が管轄する国際法務総合センター(八王子医療刑務所、府中市の関東医療少年院、相模原市の神奈川医療少年院、八王子少年鑑別所、矯正研究所・国連アジア極東犯罪防止研究所、中野区の矯正研究所東京支所、千代田区の公安調査庁を一か所に集めた総合施設で、その敷地内には職員宿舎も含まれている)の中の約4分の1の面積を占める医療刑務所部分を指します。日本で最大の医療刑務所で、病床数は445とのこと。多人数の処理に手間取るのか、この間の経験から、通信などの外部との交流には以前より時間がかかります。重信さんからの通信によれば、建物は当然新しく、医療設備も整い、暖房され、食事もおいしいようですが、コンクリートの大団地といった様相で、身近な自然に乏しく、味気ないのが残念だそうです。

重信さんへの通信に、施設名を書き加える必要はありません。住所(〒196-0035 東京都昭島市もくせいの杜2丁目1番9号)と氏名のみで届きます。どうぞ皆様、お便りを送ってあげてください。(Y)

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階
救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」
郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

《正誤》表

第 141 号

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| ①4P下から7行目 | <u>500 万人</u> → <u>530 万人</u> |
| ②8P(12/8)左上から3行目 | <u>避難</u> → <u>非難</u> |
| ③8P(12/8)下から8行目 | <u>「自民圧勝</u> → <u>「自民圧勝」</u> |
| ④8P(12/13)下から9行目 | <u>弾圧と</u> → <u>弾圧に</u> |
| ⑤10P左上から10行目 | <u>9 日</u> → <u>9 月</u> |
| ⑥11P(12/31)右下から17行目 | <u>「月の光」</u> → <u>「月光」</u> |
| ⑦16P(1/29)右上から6行目 | みんなに <u>優しい</u> →みんなに <u>易しい</u> |